お城だより

2007年 7月 No.14

編集・発行／鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会
住所／〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15 読売福岡ビル7階
TEL 092-716-8238　FAX 092-716-8254
HPアドレス：
http://fukuokajokorokan.npgo.jp/
E-mail：fukuokajo@tos.bbiq.jp

デザイン・印刷／(有)セブンプリンティング

多聞櫓

護国神社

福岡市美術館

大濠公園

福岡城跡周辺見どころ

潮見櫓

下の橋大手門
(潟見門)

鴻臚館跡
(展示館)

市民の観光スポットに

(財)ソロプチミスト常務理事
鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会理事
緒方　世喜子

扇坂御門跡の石段を上ると、梅園、早春は紅白の梅花が馥郁たる香りを放っています。

更に春四月は本丸、南丸は桜花爛漫、大勢の花見客で賑わい、市民の会の「春の桜祭り」も開かれます。

初夏は三の丸（下屋敷跡）近くに藤の花、夏はお濠一面に蓮の花、秋は観月、そして冬はすっかり刈り取られた枯蓮のあとに野鳥が飛来します。

黒田長政公、初代藩主が七年もの歳月をかけ築きあげられた壮大な城跡は、多くの歴史を秘め、今、舞鶴公園として親しまれています。更に発掘された鴻臚館跡地によって歴史の厚みをまし、内外に誇れる福岡市のセントラルパークとして位置づけられています。

只、惜しむらくは、現代人が仰ぎみる天守閣がないことですが、天守台跡の礎石が往時を偲ぶよすがとなっています。

このような掛替えのない文化遺産は、すばらしい観光の資源でありながら、素材のまま存在しています。

歴史を探りたい人の展示資料館、レストハウス、駐車場などの整備と共に、大濠公園、美術館、護国神社を含めた一体化による新たな観光スポットができればと希っています。

第四十六回　福岡市民の祭り
博多どんたく港まつり

二〇〇五年に三十一番目の演舞台として誕生した福岡城どんたく演舞台。

三年目の舞台を舞鶴公園西広場に移し、伝統の賑わいで大いに沸いた二日間でした。

四日は、黒田長高氏歓迎式典、黒田藩古武道、博多松囃子・稚児東流れ、福岡藩砲術陽流抱え大筒とこの演舞台ならではの出し物で二五〇〇名余りのお客様が訪れました。

福岡城市民の会では、四日を伝統文化に重点をおいた企画で来年も望みたいと思っています。

福岡城と博多どんたく

福岡城市民の会　岡部定一郎

江戸時代二代黒田忠之公の時、有名な黒田騒動という大きな事件が起きました。その後、福岡藩の人々の気持の盛り上げと、藩政の向上のため、博多町人の年行司吉田宗富と黒田家の家老黒田美作と協議して永らく中断していた松囃子行事の再興を計った。その時に、封健時代きびしい身分制度の中にあって、祭りの間は「無礼講」を許されるばかりでなく、更に城内でご覧頂けるという事になった。お殿様に我々の「祝う姿」が見て頂けると町人達はハッスルした。お祝儀やふるまい酒を頂いた博多松囃子の各流は大喜びで、城内城下町々に明るい賑わいの祭りが繰り展げられた。

それからが今ある「通りもん」と云われる歩きながら祝って行く型と、舞台を借りて祝い舞を行う型の二つの祝う姿が生まれて、明治初期「博多どんたく」と呼ばれるようになり、やがて「招魂祭どんたく」へ。戦後、「福岡市民の祭り」へと、大きな祭りとなった。その原動力となったのが、ここ福岡城西三の丸に設営されたどんたく演舞台会場の跡です。

◀黒田長高氏をかこんで

平成十九年
福岡城観月の宴
※小雨決行

月の出　十八時十六分

とき　平成十九年九月二十七日（木）
受付　十六時～
第一部　月を迎える
第二部　月の宴

ところ　舞鶴公園西広場（福岡市中央区城内一―一）

◇主催　NPO法人　鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

◇共催　読売新聞西部本社
NHK福岡放送局
ビジターズ・インダストリー推進協議会

◇後援　福岡市教育委員会・福岡商工会議所
（財）福岡観光コンベンションビューロー

観月弁当券……三〇〇〇円（座席付）
（弁当、飲みもの、おみやげ、プログラム付）

・会場内には野点茶（抹茶席・煎茶席）
・バザーテント（月見弁当、飲みもの、お菓子等他）
・休憩場所を用意しています。

※荒天中止の場合
観月弁当券ご購入の方々は、翌二十八日（金）に弁当券と引き換えに、当会場にて弁当、飲みもの、お菓子をお渡しします。
（受付時間　十時から十七時まで）

福岡城こぼれ話

お綱門の写真の正体は
―お綱門（3）―

大隈　和子

半年ぶりですので前回までのあらすじを少し。

福岡城に「お綱門」という、触ると祟るという門があったというお話。その理由は。

黒田の二代目の殿様忠之の時代。殿様が大坂から美しい一人の遊女、采女を連れて来ましたが、お家のもめごとになるとの諫めから、采女を家臣の麻井四郎左衛門に下げ渡しました。四郎左衛門には、すでにお綱という妻と二人の子供がいたのですが、采女が来てからは、彼女に夢中になり、お綱と子供たちは馬出の下屋敷に追いやり、終いには仕送りも途絶える始末。そんな中、悲劇は起りました。寛永七年三月のお雛祭りの前日。節句の用意もままならないので大名町の夫の元へ使いを遣りますが、冷たい返事。ひどい仕打ちに積年の怨みが爆発。お綱は二人の子供を刺し殺し、その首を包んで腰に下げ、薙刀小脇に夫の家へ。しかし夫は城で留守。逆に返り討ちにあってしまいます。それでもお綱さん、夫を追って城内へ。必死でたどり着いたお城の門。しかし哀れにも、そこでバッタリ。それ以来、お綱さんが手をかけて息絶えた門は「お綱門」と呼ばれるようになり、触ると祟ると恐れられたということです。

以上がお綱門のいい伝えですが、ではお綱門はお城のどの門かというと、それが諸説あって、はっきりしないのです。前回は、その諸説をあげて、今後の解明を期待するということで終わりました。

さて今回は、お綱門の写真の正体は、というお話です。

前回を書いた後、「お綱門」と説明がある写真を見つけました。「博多の幽霊ばなし」（『博多に強くなろう』福岡シティ銀行編）の昭和五七年当時に出された版と、『想い出アルバム・博多、あの頃』（昭和五十二年・葦書房）の中にありました。エーッと、これでお綱門の場所は解決できるかと思いましたが、写真の門は城門にしてはえらく粗末。本当にこれ、お城にあったの？という感じ。そこで思い出したのが長宮院。のちに城門を解体する時に、お綱門だけは祟るということで、長宮院というお寺に移したと伝えられているのです。

博多に強くなろうシリーズ No.22「博多の幽霊ばなし」に掲載されたお綱門の写真

しかし長宮院は昭和二十年の空襲で焼けてしまい、写真が長宮院時代のものかどうか、確かめる術がありません。そこで、長宮院をご存知の方、そう、戦前、長宮院があった簀子町に住んでいた方を捜せばわかるのではと考えたところ運良く心当たりが。早速、写真を見て頂くと「ああ、これ、長宮院の裏門。横門というのか。お祭りの時やらいつもこの門からお寺へ入ってましたばい。」バンザーイ。お城のどの門か、どこにあったかは結局わかりませんが、お綱門と伝えられる写真は長宮院時代の門を写したものであることは確認できました。お綱さん、ありがとう。

ところで長宮院はお堀のそば、上ノ橋と下ノ橋の間の重臣たちが住んだ地区の一角にありました。江戸時代に書かれた『筑前国続風土記』には凶宅なりと住む人がいなくなった土地に寛永年中、肥後の真言宗の僧が忠之公に願って建てたお寺であるという趣旨のことが載っています。本来はお綱さんの話と直接、関係はなかったのでしょうが、祟るということから、ここがお綱さんの夫の屋敷跡だという、いい伝えが出来上がります。そして長宮院は、お綱さんを祀り、お綱門を引き受けたのでしょう。

焼けた後、長宮院は再建されず、その場所は現在、福岡家庭裁判所になっています。男女のいざこざで起った悲劇の縁の場所が、現在も家庭内のトラブルを処理する所になっているとは、何だか不思議な気がしますね。

さて紙面がつきましたので、お綱さんのその後は、次回に。

（歴史研究家）

博多祇園山笠 二〇〇七飾り山

博多の夏を彩る博多祇園山笠が開幕し、福岡市内十四箇所で飾り山が公開され、そのうち三箇所、黒田藩に関係するものがありましたので紹介いたします。

四番山笠・中洲流　表　長政関ケ原智略
・黒田長政が小早川秀秋を東軍に引き込んだ智略がテーマ

六番山笠・千代流　表　双胄千古勲
・黒田長政と福島正則が兜を交換した逸話

十五番山笠・天神一丁目　表　黒田長政関ケ原合戦
・関ケ原で石田三成を破った長政の勇姿を描く

新規会員名簿・更新会員名簿（平成19年6月25日現在）

正会員（個人）11名

新井治夫　篠田文子
井上成人　田中妙子
爪生良子　新田義和
久保浩司　水城四郎
高口秀夫　山竹広志
サエキフミオ（住所をお知らせください）

正会員（団体）2団体

（有）オークラ
名島神社

一般会員（個人）64名

荒井由紀子　永松芳子
有井治代　中村一夫
伊藤裕樹　中村行宏
井上淳己　鍋島恭子
井上りつ子　西嶋スマ子
入江正幸　橋爪博幸
植村正彦　波多江義之
大隈朋之　原俊寿子
大塚慎吾　馬頭徹夫
大場由文　平山里恵子
大嶋俊明　木俊二
大森美枝子　福島順一郎
奥園努　藤田優子
片山美智恵　渕上章子
加藤光子　古川登美子
金原秀樹　益田正利
菊田憲明　水野栄一
北原千沙子　三善洋子
倉園真紀　三善勝彦
甲木辰利　村山将男
小嶋秀毅　室川豊明
志岐俊治　森田富夫
茂山正樹　安浦京子
下川貴士　山田素明
鈴木常雄　吉坂キヨ子
高山由美子　吉冨嘉代子
田中秀俊　吉村貞利
因和哲平　牧淀川雄治
因友真　渡邊悦子
永輝彦　渡邊幸夫
徳越鳥

一般会員（団体）3団体

大長寺
中津黒田武士の会
博多人形作家協会

正会員更新会員（個人）36名

秋竹アサヨ
秋竹ヤチヨ
阿比留啓子
池野允雅
伊崎義弘
石井幸孝
石蔵利光
稲員大三郎
打越基安
大塚京子
大塚正
大野正昭
緒方世喜子
岡部定一郎
荻野忠之
各務郁子
小畠章
加藤芳子
桑原暉子
杉本清明
高木俊子
藤村英司
筑紫千代
金之助
西田憲一朗
西川芳泉
中村旭園
中田辰治
仁田辛一子
日永田忠一
母里昭子
簑原孝志
百田悦次郎
森清蔵
武芙美子
安崎寿樹
山田吉

##正会員更新会員（団体）8団体

明るい町づくり協議会
黒田奨学会
大成建設（株）九州支社
藤香会
博多きものきろう会
（株）黒田屋
（株）山口油屋福太郎
（株）ブレネット

一般会員更新会員（個人）94名

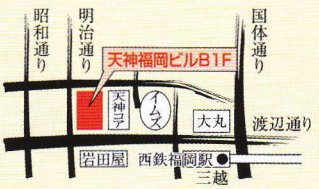
朝倉直由
石橋直子
伊豆丸幸子
伊藤紀子
井上紀興
上田喜久雄
内野順子
稲敏
浦志甲子生
上貞雄
大神善郎
大島汐子
大島泰治
大山弘道
緒方悠子
小倉亘
小河昭三
小林道雄
小西敏文
後藤仁公
古賀キヌ子
小池玲子
熊谷佳子
工野瑛子
木下史郎
河方正己
上原昭子
片山晃一
楓巖
甲斐タヅ子
尾花キリエ
鶴川靖子
鶴川隆之
鶴川キミエ
徳永良子
中野武人
中牟田登志子
鍋島元昭
西木友世
西島道子
野田弘信
半田玲子
比嘉義永
樋口恩
樋口正幸
深沢一夫
福元征四郎
藤木延恵
藤原ミツ子
古谷正之
坂本光乃
坂口英治
笹野佳子
柴田幸輔
柴本隼太
島野均
下川久代
瀬利哲治
瀬利裕太
瀬利一代
高山義明
高杉重行
竹林一夫
田崎保雄
田島満行
田尻満里子
立石重利
立石浩
田中龍一
田中増視
辻口憲由
津田慶一
渡辺英
吉武二八郎
吉田聰
山本佳子
山田和子
森永顕子
森田緒
森瀬清博
牟田勝則
宮本和好子
宮崎千秋
峰松佳久雄
水摩ちず子
眞鍋賢子
松永憲博
松岡龍男
松井亮佑
益田寿美子
前田幸江
前田光風
堀本光乃
古谷正之
藤原ミツ子
藤木延恵
福元征四郎
深沢一夫
樋口正幸
樋口恩
比嘉義永
半田玲子
野田弘信
西島道子
西木友世
鍋島元昭
中牟田登志子
中野武人
徳永良子
鶴川靖子
鶴川隆之
鶴川キミエ

一般会員更新会員（団体）3団体

（株）近鉄ホテルシステムズ
博多都ホテル
（株）天盃
（株）西日本新聞旅行

「福岡城市民の会」では、新規入会の皆様と会員を更新された皆様を該当の「お城だより」の誌面に紹介しております。4月発行のNO.13は特別企画の誌面構成になり、会員の紹介がNO.14と合同になりました。一言おことわり申しあげます。

うどんそば処　蒲鉾の蜂屋
博多 峰松本家



福ビル店営業時間　平日　午前11時～午後9時
土・日　午前11時～午後8時30分
席数80席（お座敷6名様～20名様）

株式会社　峰松本家
本店（立花寺店）〒816-0062　福岡市博多区立花寺1丁目9-34
TEL（092）503-3687（代）
FAX（092）503-6280番
天神福ビル店〒810-0001　福岡市中央区天神1丁目11-17 B1F
TEL（092）714-0030（代）
FAX（092）714-0146番